

信 濃 毎 日 新 聞 (夕刊) 2015年(平成27年) 11月5日 木曜日

Wow! TOKYO

④



学生に教わりながら、自分の名前を漢字で書くジュニア・ブリュートシュさん。東京都台東区の沢の屋

昭和の面影が残る日本旅館の食堂に外国人が集まり、真剣なまなざしで書道に挑む。教えているのは日本の若者たち。東京都台東区谷中の旅館「沢の屋」の光景だ。

宿泊客の9割が外国人という沢の屋。客室は和室ばかり12部屋。「安くて清潔」と評判で、家族で貸し切れるひのき風呂や、沢功さん一家によるぬくもりのある接客も支持されている。上野に近く、最寄りの地下鉄根津駅は銀座や原宿へ行くのに便利だ。



この日の夜は、東洋学園大現代経営学部3年生が書道体験イベントを開いた。「あなたの名前を漢字で書いてみよう」と英語で書かれたチラシが宿泊客を誘う。

書道体験

自分の漢字名教わり挑む

参加者は学生に自分の名前を告げ、漢字を考えてもらう。例えばブルーノさんは「武留乃」、フランソワーズさんなら「富蘭沢図」だ。

フランスから来たマーケティングリサーチチャーターのジュヌビエブ・ブリュートシュさんは「寿拔美江武」に決まった。半紙か白いTシャツかを選べるので、Tシャツに名前を書くことに。服が汚れないように雨がっぱを着て、学生に教わりながら一画ずつ丁寧に筆を動かしていく。さつきまで陽気に話していたのに、この時ばかりは目の色が変わった。

約30年前、沢の屋に近い東京芸大に留学していたというが、「自分の名前を漢字で書いたのは初めて」と大喜び。「漢字はきれいでミステリアスだから興味があります」と笑顔で語った。書道体験のほか、これまで沢の屋が宿泊客に呼び掛けたイベントは、祭りのみこし担ぎ、町内の餅つき、着物の着付け、似顔絵描き、獅子舞など幅広い。下町の小さな旅館が「観光は平和へのパスポート」を合言葉に、草の根の国際交流を深めている。

〈おわり〉